

卵巣癌下行結腸転移の1例

たけ ばやし まさ たか
竹 林 正 孝

キーワード：卵巣癌，転移性大腸癌

要 旨

症例は54歳，女性。腹痛を主訴に受診。大腸内視鏡検査で下行結腸に粘膜下腫瘍様の隆起性病変を認めた。腹部CT検査では下行結腸と両側卵巣にも腫瘍性病変が指摘された。婦人科では右卵巣腫瘍が疑われ，CA125が1229 IU/Lと高値を示した。以上から，右卵巣癌および転移性下行結腸癌を疑い手術を施行した。両側卵巣癌による下行結腸転移，腹膜播種でⅢc期と診断し，両側卵巣摘出術，左半結腸切除術，膀胱部分切除術を施行した。切除標本では下行結腸の粘膜面にはⅡc様病変として露出し，漿膜側に発育する腫瘤を形成していた。右卵巣癌は弾性硬の多房性腫瘤で後腹膜に浸潤し，左卵巣癌は同じく弾性硬の多房性腫瘤で後腹膜と膀胱に浸潤していた。病理組織学的には卵巣癌は両側ともに漿液性腺癌を呈し，下行結腸病変も腫瘍全体が卵巣癌と同じ組織を呈した。悪性腫瘍の大腸転移は稀である。さらに卵巣癌の大腸転移は少なく，現在までに7例が報告されているに過ぎない。

はじめに

大腸は一般的に転移を受けにくい臓器とされており，大腸癌全体で見ると転移性大腸癌の頻度は0.1~1.0%と報告されている¹⁾。なかでも卵巣癌からの転移性大腸癌を切除した報告例は少ない。今回われわれは左下腹部痛で発症した両側卵巣癌からの転移性大腸癌に対し手術を施行した症例を経験したので報告する。

症 例

症例：54歳，女性。
主訴：左下腹部痛。
家族歴：特記すべきことなし。
既往歴：32歳時，虫垂切除術。
現病歴：4ヶ月前から左下腹部痛を自覚していたが放置。最近腹痛が増強したため当院を受診した。外来で注腸造影を施行され，下行結腸癌を疑われて入院となった。

入院時現症：身長156 cm，体重60 kg，血圧135/78 mmHg，脈拍72/分，整。胸部理学的所